

---

論 文

---

## 離島における心理支援の可能性

～島外から勤務するスクールカウンセラーの生活環境との違いに焦点を当てて～

奥田綾子\*・村山正治\*

### 要 約

都市圏から離島に勤務するスクールカウンセラー（以下 SC と略記）は、都市圏では経験しない状況に直面している。連携可能な社会資源が少ない。コミュニティへの依存が強い分、個人情報が出れやすい。家庭環境などプライバシーに関わる部分も知られていることが多い。祖父母等からの支援を受けることができる利点がある一方でそこから新たな問題が生じる場合もある。悪天候や新型コロナウイルス感染拡大等で、突然数カ月間勤務をすることができない事態が生じている。筆者は、このような状況下で、都市圏から毎週島に出勤し、SC として中学校に勤務してきた。本稿では、身体症状により欠席が続いていた女性生徒の事例を挙げ、島外から勤務する SC の生活環境の違いに焦点を当て、離島における心理支援の可能性について論じた。①コミュニティに受け入れてもらえるように努力する。②支援を受けることに抵抗があることを理解する。③地域の社会資源を知る努力をする。④支援者である SC が受け入れてもらえるように努力をすることが、都市圏で勤務をする SC 以上に求められる。離島の特性を活かし、一度信頼されれば社会資源の一つとして SC へのニーズはあるという点がわかった。

キー・ワード：離島 スクールカウンセラー コミュニティ 生活環境との違い